

サルの苑タイムズ

長寿を慶祝し記念のカメラに (米寿・百寿など)敬老の日を前に

今年の「敬老の日」は九月十八日。社会における多種多様な分野で貢献されてこられた皆様を敬うとともに、今後のますますのご健康とご長寿を願ひ、心から祝意をお伝えするものです。



えするものです。

ここでは、各ユニットで米寿(八十八歳)をはじめ、百寿(百歳)および白寿(九十九歳)を今年度に迎えられる方を、皆様の代表としてご紹介

令和5年9月15日発行
第108号
〒370-0002
高崎市日高町433-1
TEL: 027-329-7211
社会福祉法人 生会
特別養老施設 サルの苑
高崎市 広報委員会

「敬老の日」を祝ひたいします。

なお「敬老の日」を祝ひたいします。賀して各ユニットにおいては、これから様々な形で記念行事を予定しています。

- ◆ (一号館) ◆
- ※米寿 廣神チエ子様 (二号館)
- ※米寿 内田美恵子様
- ※百寿 信澤ミネ様 (三号館)
- ※米寿 原迪代様
- ※米寿 生方啓一郎様
- ※白寿 新井文子様

「敬老の日」

「ちよつと豆知識」

「年長の方を敬い、長寿を願う」行事として定着した敬老の日は、もともと九月十五日でしたが、平成十五年からハッピーマンデー制度が導入されて「九月の第三月曜

日」となりました。もとの九月十五日になった淵源は、聖徳太子にまつわる逸話など諸説があるようですが、いずれにせよお年寄りを大切に敬う心が起源になっているようです。

九月十五日から二十一日までの一週間は「老人週間」と老人福祉法に定められています。「敬老の日」は、家族や身近な年長者を敬い、健康を願う日として、アメリカやカナダ、中国、韓国などでも実施されているようです。

第10回フォト作品展を開催 (県老協)スマーク伊勢崎で

一般社団法人群馬県福祉施設協議会(県老協)が主催する、第十回「施設で過ごすお年寄りの生活(くらし)」フォト作品展が九月十二日から敬老の日の十八日までの七日間、伊勢崎市の「スマーク伊勢崎」で開催されます。(開催時間は10時～21時まで)



広報コンテスト1次通過作品

県民に向け魅力発信

施設等で生活するお年寄りとその支援を行う職員の写真や笑顔の写真を展示し、老人福祉施設の理解と、介護職の魅力を広げ、県民に知って頂くことを目的に開催されるもので、群馬県、群馬県社会

花の苑の作品も展示

展示する写真は、県老協が行う第十五回広報コンテスト「フォト部門」で一次審査を通過した、高崎花の苑の作品「豆まき終われば皆仲間! 万歳!」を含め、六十四作品です。

カメラスケッチ

高崎の夏の風物詩「たかさきまつり」が8月26日から二日間、盛大に行われました。その中心は日本有数の規模を誇る山車巡業と北関東最大級の花火大会。その一コマをカメラに収めました。



ユニットのたより

「写真マニアの感性」

EFユニットのベランダで育てていた夏野菜も終わりの時期を迎え、まだまだ夏日が続くとはいえ、少しずつ季節は秋に向かっていくようです。

そんな中で、施設で育てた夏野菜の一つ、収穫したミニカボチャがユニットのホールに三つ並んでいるのを田中貢様が一覧になり、カメラ片手に「写真を撮っていいか



い？」と職員に声をかけて下さいました。

とても可愛らしい大小のカボチャを職員が大きい順に並べると、数回シャッターを切られ、今度は順序を変えてまたシャッターを。その真剣さに職員も息をのんで見守っていました。

その後プリンターで処理する際には、この夏、ベランダで撮影した野菜たちの写真を眺めながら「今年はいっぱい野菜が出来たね」と、季節が夏から秋へ向かう気配を感じ取っておられました。(E・Fユニット U)

「あの夏の麦わら帽子」

猛暑が続く夏のある日、利用者様との会話の中で、「夏といえば・・・」という話題になり、スイカやかき氷、花火等の声を



が上がる中「昔は麦わら帽子を被っていた。懐かしいな」と話されていた方がおられました。

そこで職員が「麦わら帽子」を手作りしてみようと思ひ、ユニットにある紙ひもを使い、くるくると巻きながら帽子の形になる様にボンドでのり付け。飾りには付箋を使って花を。もう一つはペットボトルの蓋に麻ひもを巻き付けて帽子の形に。リボンを付け、付箋をパンチで花びらの形にくり抜き、向日葵の飾りを作りました。

利用者様が被れるサイズの物は難しかったので、人形が被れるサイズにしました。完成品をお見せすると「わあーすごい。上手ね！」とお褒めの言葉を頂きました。私

もかぶっちゃおう」と頭に乗せ、一緒にカメラに収まり、盛んに笑顔を見せておられました。(Dユニット A)

「気分は高崎夏祭り」

HIユニットでは、夏行事の後半戦に当り「夏祭り」を行いました。

今年の夏は例年になく猛暑日が続くなど、厳しい暑さに夏バテ気味の方も目立ちました。そこでユニット職員間で相談したところ、お祭り屋台を設置した夏祭りや、暑さを吹き飛ばそうとの企画で一致。当日は焼きそば、かき氷、フランクフルト、綿あめなど定番食品を用意し、利用者様にお好きな物を選んで召し上がってもらいました。



ば。ソースの香りはことさら懐かしさを呼ぶのでしようか。「焼きそばお替りちようだい」との声が聞かれ、担当職員も大わらわでした。その他、かき氷も皆様からたくさん注文が入りました。

伝統の高崎まつりも街の中心部でやっている関係で、あのなつかしい笛や太鼓の音は施設まで届きませんが、せめてちよっとした祭りの雰囲気だけでもとの思ひは、利用者様に伝わったと思えるひと時でもありました。(H・Iユニット H)

委員の一言メモ

★どこにも行けなかった今年の夏。諦めていた高崎祭りの花火を、建物の隙間から見ることができました(由) ★暑い日が長く続くため、子供のためビニールプールを買い庭で水遊びをさせています(努) ★猛暑が続く、家でかき氷が食べたく、ダイソーでかき氷機を購入。ついつい食べ過ぎています(彩) ★残暑はいつまで続くのかと利用者様と談義してますが、空を見れば秋の気配が(麻) ★猛暑は続きますが、暦では夏が終わり、それはそれで寂しい気がします(山) ★暦を見ればもうすぐ中秋の名月。季節の移り変わりに体がついていかないです(由) ★様々な花火大会が数年ぶりに開催。帰り道に何も知らずに見えた花火にやっぱり嬉しいものだなと感じました(美) ★真夏日が依然続く中、展望花の丘では九日(土)からコスモス祭りがスタート。小さい秋を見つけに(井)